

八条・豊岡地区
(豊岡地域)



私は、昨年より農地利用最適化推進委員となり、遊休農地の有無の確認、農地のパトロールなどの活動を行っています。私が担当しています八条・豊岡地区の遊休農地は他地区に比べ少ない方だと思っています。

私の地元、八条地区は、大きく9つの地区からなり次第に宅地化が進んでいます。現在、八条地区の人口は5266人、世帯数は2268世帯(2022年9月現在)です。10年前の人口は5228人で、世帯数は2062世帯でした。八条地区の人口と世帯数は、ほとんど変化が見られませんが、区ごとに人口を見ていると、九日市上町、九日市下町の2地区が大きく増えています。

農地が宅地になり、住民が増えるのは良いことですが、耕作者にとっては色々と問題も出てきています。
・大型農機搬入のための積載車による通行の妨げ
・大型農機が路上に落とした土



上倉推進委員



西沢農業委員



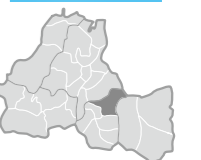
宅地化が進んでいる八条地区

・農機具のエンジン音(騒音)などの色々なクレームがあります。

農地は、妙楽寺から九日市上町(鞆団地)までの6地区には非常に少なく、農地の多くは、但馬空港から国道を降りた上佐野地区とその北に隣接した佐野地区に広がっています。上佐野地区の耕作者は高齢化が非常に目立ってきています。また、佐野地区においては、大規模農家に頼り切りになっており、彼らの存在が生命線となつてしまっています。

私は農地利用最適化推進委員として、今後も佐野地区はもとより八条・豊岡地区の農地を少しでも守るお手伝いができればと思っております。(八条・豊岡地区推進委員 上倉 貞実)

小野地区
(出石地域)



出石地域の小野地区は平坦農地と中山間農地から成り立っており、水稲が中心になっていますが、近年、若手認定農家の野菜、小麦や蕎麦などの作付けも増えてきました。ただ、山に囲まれていることもありシカ、イノシシなどの獣害が深刻です。

口小野地区は平成30年度に補助を受け、主な農地をワイヤーメッシュ柵で囲いました。シカには有効でしたが、イノシシがすぐ柵を壊し問題になりました。

市役所に相談したところ、ワイヤーメッシュ柵の裾を補強する資材があることがわかり、日役をかけて、順次補強をしています。これはアンダープロテクトフェンスという製品で、完璧ではありませんが、かなり効果があります。

日役に参加するのは、ほとんどが関係する農家である中、最近少しずつではありますが非農家の人達の協力も得られるようになってきました。



中務推進委員



仲川農業委員



防護柵裾部分の補強作業

た。地域全体で農地を守れたらと思います。

ワイヤーメッシュ柵をすることでかなりの農地が守られると思います。非常に高価で、補助なしでは難しく、一度補助申請すれば14年間申請できず、新規就農者が新たに柵をしようと思っても難しいのが現状です。多額なお金がかかるのはわかりませんが、もう少し寛大な制度を望みます。

鳥獣害を防ぐことで生産意欲が湧き、農地の荒廃も防げるのではと思います。(小野地区推進委員 中務 喜紹)

福井県へ視察研修

若狭町農業委員会
株式会社若狭の恵

農業委員 鳥尾 勝
農業委員 高尾 利美

昨年11月21日・22日に、委員21名の参加により視察研修を行いました。1日目は地域計画を先行的に取組まれている福井県「若狭町農業委員会」との意見交換会、2日目は小浜市のメガファーム「(株)若狭の恵」にて、中山間地域における農業経営モデルの説明と施設見学による研修を受けました。

《若狭町農業委員会との意見交換》

1日目の「若狭町農業委員会」では、今年度から「人・農地プラン」が「地域計画」へと法制化されたのに伴い、課題解決に向け農業委員会が中心となり、108の経営体により主に水稻栽培を1535ヘクタール引き受けるという地域計画の策定に取り組まれました。

地区内で作成にあたっての課題

や出し手・受け手からの意見を出し合い、区長会を通じて地主等へ知らせました。そうすることで出し手・受け手の方々の意識の変化があり、地区内の担い手を中心となり、農地を耕作することの意識付けや担い手農家の連携に繋がったと説明を受けました。

《株式会社若狭の恵(小浜市) 施設訪問 研修》

2日目のメガファーム「(株)若狭の恵」は、地区内6集落にある4つの営農組合を合併・法人化し、平成27年に設立されました。従業員は10名(平均年齢30歳以下)で農地利用集積面積約140ヘクタールに水稻、大麦、その他野菜等の生産・加工を行い、米は直接販売や卸売(インターネットも活用)で販売し「持続可能な農業を目指して」をモットーに活動されています。

施設見学時には、前野恭慶代表

から「お米の管理は栽培だけでなく、乾燥調整・検査・保管・精米・出荷まで全て社内で行い、お客様へは精米したての新鮮な状態でお届けし、最後まで品質に責任を持つことが我が社の誇りです。」と説明を受けました。

また、「環境を守りつつ、農作物の栽培管理を担い、労働環境を整えることで、安心して誇りを持って働ける農業法人に成長すると



乾燥機



色彩選別機

《課題解決に向け共感》
視察先の両者とも、課題としては、農家の高齢化と後継者がいないことや生産効率が悪いこと等々から、今後耕作できなくなる農地が増えることが懸念される中、持続可能な体制づくりと新たな担い手育成が急務とのことでした。
課題解決に向け真剣に地域全体で取り組み、頑張っておられる農家の方を最も大切にされています。また、未来へと引き継がれるように子供達が働きたいと思える農業経営を目指されていることに共感しました。
今回の視察研修を通して、今後の委員活動に向けて、大変有意義なものになったと感じています。



多数ある大型トラクター